

# KM Report

Knowledge  
Management  
Society of  
Japan

VOL. 3

1999 FEB



## CONTENTS

ご挨拶  
副会長

第二回 年次大会  
大会委員長（副会長）

第一研究部会レポート

第二研究部会発足のお知らせ

ナレッジ・マネジメント・コンファレンスへの協力

米国ナレッジ・マネジメント事業調査

KM 関連図書のご案内

役員

インフォメーション

研究奨励賞のご案内、年間スケジュール等

## ご挨拶



副会長 花村 邦昭

あけましておめでとうございます。

年初来、円高・株安・長期金利上昇により景気が再び底割れに向かうリスクが台頭しております。生産活動・個人消費・住宅着工・設備投資・輸出どれをとっても経済指標はすべて低水準、または低下傾向が続いています。このままいけば三年連続のマイナス成長は避けられない見込みです。時代の展望は依然としてまったく開かれないまま、むしろ閉塞感は深まる一方とってよいでしょう。「この状態をブレイクスルーするには、政にも官にも頼らずに民間企業が元気を出す以外にない」という論調が正月以来、随所で目につくようになってきました。もはや一刻の猶予も無いというのがいまや産業界の本音とってよいでしょう。

そのような中であってこれから期待をもてる分野があるとすれば、それはコンピュータ・ネットワークが切り開いていくであろう新しい情報通信の世界、ならびにそれがもたらすであろう「知のコラボレーション」の世界です。

民間企業は最大の経営資源である膨大な「知」を内部に埋もれさせたまま、それを充分には活用できないでいます。外部との交流はもちろん社内での相互利用も不十分です。必要性は感じていながらも、そのためのデータウェアハウスの構築もなされず、それを検索するエンジンもない、ツールがないからできない、やろうと思ってもツールがない、そのイタチごっこで動きがとれないでいるというのが実状でしょう。いまわれわれが取り組むべき喫緊の課題は、企業内外で広範かつ活発な「知のコラボレーション」が起こるようなツールを整備し、そのための「場」を設けることです。それを通して新たな事業機会を生み出すとともに、自らの企業のコーポレート・ベンチャリング化を図ることです。

われわれ日本総研では、このような「知のコラボレーション」がわが国の産業社会の文化的伝統になるよう、そのために何がしかお役に立ちたいということで、提言活動やコンソーシアムの組成など、さまざまな実践を行って参りました。そうする以外に日本経済再生の道はない、少なくともいまの閉塞状態を打破する方途は外にはないと信じてのことです。

日本ナレッジ・マネジメント学会に期待される役割もそこにあると思います。当学会がそのための「知の交流の場」として今後ますます発展していくことを願ってやまない次第です。

# 日本ナレッジ・マネジメント学会 第二回年次大会の開催について

大会委員長 花村 邦昭

日本総合研究所 代表取締役会長、学会副会長

## 統一論題 「進化するナレッジ・マネジメント こころと智恵のマネジメント」

日本ナレッジ・マネジメント学会は、平成10年1月に設立されて以来、各研究会の活動も熱心に進めてまいりました。そこで今回、第2回年次大会を開催するにあたり、非会員の方々にも研究・協議の成果を共有できますよう世界一のコンサルティングファームアーサーアンダーセンのパートナーのボブ・ヒーブラー氏を迎え記念講演を行う運びとなりました。ボブ・ヒーブラー氏は、巨大ナレッジ・データ・ベース「ナレッジ・スペース」の開発者であり、ベストセラー「ベストプラクティス」の著者として世界中で活躍されております。

21世紀に向けて、ナレッジを基準として新しい価値観を創造していくヒントを得る絶好の機会と存じますので、年次大会も併せて是非ご参加いただきますようお願い申し上げます。

日時：平成11年2月15日(月)

場所：キャピトル東急ホテル(定員300名)

東京都千代田区永田町2丁目10番3号

地下鉄千代田線・丸の内線[国会議事堂前駅]、地下鉄南北線・銀座線[溜池山王駅]5番出口正面

## プログラム

9:30	受付開始
10:00 ~ 10:10	開会の辞 学会会長 奈良 久彌 (三菱総合研究所 会長)
10:10 ~ 10:20	開会宣言 第2回年次大会長 花村 邦昭 (日本総合研究所 会長) 司会/コメンテーター：一條 和生 (一橋大学 助教授)

### 午前の部

10:20 ~ 11:10	研究報告(1)「暗黙知の経営」田坂 広志 (日本総合研究所 取締役/早稲田大学 講師)
11:10 ~ 12:00	研究報告(2)「失敗の本質」杉之尾 宜生 (防衛大学校 教授)
12:00 ~ 13:10	昼 食

### 午後の部

13:10 ~ 13:30	年次総会 司会/コメンテーター：古山 徹 (日経 QUICK 情報)
13:30 ~ 14:20	研究報告(3)「経営革新とナレッジ・マネジメント」谷口 恒明 ((財)社会経済生産性本部 経営革新本部長)
14:20 ~ 15:10	研究報告(4)「個とプラクティスのコミュニティ-欧米ナレッジ・マネジメント動向-」高梨 智弘 (日本総合研究所 理事)
15:10 ~ 15:30	休 憩

### 記念講演の部

15:30 ~ 17:30	記念講演「ナレッジ・スペース」 Robert J. Hiebeler (ボブ・ヒーブラー)(アーサーアンダーセンパートナー)
17:30 ~ 17:40	総 評 学会専務理事 山内 悦嗣 (アーサーアンダーセン日本副代表)
17:40 ~ 17:50	閉会の辞 学会評議員会副議長 山本 信孝 (三和総合研究所 社長)
18:00 ~ 19:00	懇 親 会

## 第一研究部会レポート

(座長: 一條 和生 一橋大学助教授、学会専務理事)

**第3回 平成10年9月21日 10:00 ~ 17:10 さくら銀行丸の内クラブ 出席者110名**

第一回年次大会の午前の部を第3回研究会と合同で実施いたしました。報告者は一條 和生(一橋大学)、川島 文人(アーサーアンダーセン)。

**第4回 平成10年12月3日 17:00 ~ 22:00 軽子坂MNビル 出席者67名**

米国KM視察(10月14日~10月25日)報告、KMのための検索システムの報告など、盛り上がりを感じさせ、分科会の構想も説明された。報告者は4名で

1. 森田松太郎(学会理事長)「米国KM視察を終えて」
2. 高梨 智弘(学会専務理事)「米国KM調査の概要」
3. 大田 秀一(会員: Pen Research)「T. Davenport 流 KM 図式における次世代情報技術」
4. 分科会活動について(一條和生座長の代弁で川島文人)

今回は第二回年次大会の午前の部が合同となる予定。分科会活動はこれとは別に活動予定。

## 第二研究部会(ケーススタディ研究部会)発足のお知らせ

すでに第一研究部会は一線先生の座長のもとで、既に4回開催し多大の成果をあげています。この度、企業の現場において実践されているナレッジ・マネジメントについて、企業の現場において、現場の人たちと意見を交換し、生々しいナレッジ・シェアリングの研究をする部会を発足させる事を検討しています。第一研究部会の成果とシェアリングしながら、ナレッジ・マネジメントの研究を深化させて行く事を目指します。

年に3回位の、研究会を開催したいと考えています。詳細については、部会発足時に部会員の意見によって決定する段取りを考えています。

会員のなかで、参加希望の方は事務局までお申し込みください。

座長予定 高梨 智弘 日本総合研究所 理事、学会専務理事

キーワード ナレッジの共有、データ、情報、知識、知恵、暗黙知、形式知、  
ナレッジ・ワーカー、バリュー、ナレッジ・マッピング、ベスト プラクティス、  
ベンチマーキング、経営品質、ナレッジ・マネジメント、知識データベース、  
コミュニケーション、ネットワーク、協働、知識エンジニアリング、個の創発、  
自己組織化、イネイブラー、学習、価値創造

## 日本経済新聞社主催「ナレッジ・マネジメント・コンファレンス」への協力

日時: 平成11年3月23日(火) 9:00AM ~ 12:30PM

会場: 東京国際フォーラム(有楽町)レセプションホール

コラボレーション&ナレッジ・マネジメントと称する4構成(主催者セミナー・出展社セミナー・ショーケース等)のひとつの日本経済新聞社主催「ナレッジ・マネジメント・コンファレンス」-ネクスト・ミレニウムに生き残る企業創造へ向けて-に協力することになった。

当学会から、

オープニングアドレス「ナレッジ・マネジメントをどう考えるか」に高梨 智弘 学会専務理事  
基調講演「ナレッジの本質とは何か」に一條 和生 学会専務理事が講演者として参加します。

なお、ショーケース&コンサルティングコーナーでは、学会の展示コーナーを催けますので会員諸氏の参加を期待します。

# 米国ナレッジ・マネジメント事情調査

学会理事長 森田 松太郎

平成10年10月14日～15日までの12日間にわたり当学会の会員を中心にアメリカにおけるナレッジ・マネジメントの実態調査のツアーを行いました。

ツアーの出だしは、カリフォルニア州のオントリオにあるヒルトンホテルに著名なピーター・ドラッカー氏をお招きして、同氏の最近の研究について約6時間にわたりお話を聞く事ができました。同氏は既に90歳に近い年齢にも関わらず長時間にわたり熱心に話をし、かつ質疑にも丁寧に答えて頂きました。その真摯な態度には、一同強烈な印象を受けました。

特に、21世紀における日本の人口構成の変化が社会に与えるインパクトの大きさ、また、そのインパクトが色々な面で、産業の構造や企業経営に影響をあたえるであろう事が、改めて認識できました。

ついで、ロサンゼルス郊外のラグナビーチで、もと毎日新聞の外信部長であった大森 実さんから、アメリカの政治や経済の実状についての的確な話を聞く事ができました。帰国後大森さんの指摘が実に的確であった事が確認され、今更ながら、事実の把握の重要性と分析の精度について認識を新たにしました。

10月19日にシカゴの郊外セントチャールスにあるアーサー・アンダーセン教育センターを訪問、施設を視察した後、ボブ・ヒーブラー氏からアーサー・アンダーセンの行っているナレッジ・スペースについてプレゼンテーションを受け、アメリカにおけるナレッジ・マネジメント実践における最新の事情について勉強し強い印象を受けました。

なお、同氏はアメリカン プロダクティビティ アンド クオリティ センター (A.P.Q.C.) 主催のシンポジウムにおいてもナレッジ・スペースについて基調講演を行いました。

10月22日と23日はウィリアムズパークで開催されたA.P.Q.C.のナレッジ・マネジメントシンポジウムに出席しました。

約450名の出席があり、アメリカにおいてはナレッジ・マネジメントは既存の事実として定着しているという印象を受けました。シンポジウムは、センターの社長のカーラ・オデルさんのイントロダクションで始まり、ついでバックマンさんの基調講演が行われました。

その後、28に及ぶ基調講演と分科会が開かれ、それぞれにツアーのメンバーが分かれて参加し、アメリカの現状について勉強しました。シンポジウム全体の内容については、米国ナレッジ・マネジメント調査報告書のなかで詳細に報告されています。学会の皆さんにおおいに参考になると思います。





## KM 関連図書のご案内(第 3 回)

1. 経営品質の真実 高梨 智弘 生産性出版(98/9)

2. 暗黙知の経営 田坂 広志 徳間書店(98/9)

3. 富士通のナレッジ・マネジメント 黒瀬 邦夫 ダイヤモンド社(98/9)

4. 知的資本のマネジメント 高橋 俊介 ダイヤモンド社(98/8)

5. ナレッジ・マネジメント革命 大浦 勇三 東洋経済新聞社(98/7)

6. 知的無形資産会計 白石 和孝 新世社(97/9)

7. 経営の質を高める 8 つの基準 大久保寛司 かんき出版(97/5)

## 研究奨励賞の選定について

第一回研究奨励賞はつぎの選考委員によって行われた。

委員長 亀井 正夫  
委員 森田松太郎  
嶋口 充輝  
野中郁次郎  
加護野忠男  
境 健一郎

選考会は 2 度実施された。候補作として推薦されたのは次の 6 著作である。

1. バリュー経営 一條 和生  
2. 富士通のナレッジ・マネジメント 黒瀬 邦夫  
3. 知識資産の経営 紺野 昇  
4. 経営品質の真実 高梨 智弘  
5. 大きくしないで強い会社をつくる 西浦 道明  
6. 経営の質を高める 8 つの基準 大久保寛司

以上の 6 著書について慎重に選考の結果、全員が一條 和生氏のバリュー経営を当年度の研究奨励賞として推薦することになった。バリュー経営は平成 11 年 1 月 20 日に開催された評議員会で正式に研究奨励賞作品として決議された。

# 役員

< 1999年1月1日現在 >

会 長	奈 良 久 彌	(株)三菱総合研究所 取締役会長)
副 会 長	大 野 剛 義	(株)さくら総合研究所 取締役社長)
副 会 長	花 村 邦 昭	(株)日本総合研究所 取締役会長)
評議員会議長	亀 井 正 夫	(住友電気工業(株) 相談役)
* 評議員会副議長	山 本 信 孝	(株)三和総合研究所 社長)
理 事 長	森 田 松 太 郎	(朝日監査法人 相談役)
副 理 事 長	嶋 口 充 輝	(慶応義塾大学 教授)
専 務 理 事	高 梨 智 弘	(株)日本総合研究所 理事)
専 務 理 事	山 内 悦 嗣	(アーサーアンダーセン 日本副代表)
専 務 理 事	一 條 和 生	(一橋大学 助教授)

## アドバイザー・ボード

カーラ・オデール	(アメリカ生産性品質センター 理事長)
ディック・ミゼール	(前アーサーアンダーセン マネジング・パートナー)
竹 内 弘 高	(ハーバード・ビジネス スクール客員教授)

## 評 議 員

* 大 森 康 彦	(株)ケイネット社長)
唐 津 一	(東海大学開発技術研究所教授)
河 村 有 弘	(日経BP(株)専務取締役)
トム・ケリー	(Knowledge Enterprise 理事長)
坂 本 吉 弘	(日本エネルギー経済研究所理事長)
椎 名 武 雄	(日本アイ・ピー・エム(株)会長)
杉 之 尾 宜 生	(防衛大学校教授)
瀬 戸 雄 三	(アサヒビール(株)社長)
竹 中 平 蔵	(慶応義塾大学総合政策学部教授)
田 中 榮	(株)大和総研社長)
張 富 士 夫	(トヨタ自動車(株)副社長)
野 中 郁 次 郎	(北陸先端科学技術大学院大学教授)
橋 本 綱 夫	(ソニー生命保険(株)会長)
浜 田 広	(株)リコー会長)
カール・ベッカー	(京都大学総合人間学部助教授)
S・ホロニック	(アーサーアンダーセンパートナー)
本 間 雅 雄	(情報通信総合研究所相談役)
松 本 滋 夫	(日本電気(株)常務取締役)
峯 嶋 利 之	(日本電信電話(株)常務取締役)
宮 原 明	(富士ゼロックス(株)副会長)
師 岡 孝 次	(東海大学工学部教授)
ボブ・ヒーブラー	(アーサーアンダーセンパートナー)
富 沢 秀 機	(日本経済新聞社取締役事業局長)

## 理 事

阿 片 公 夫	(株)NEC 総研社長)
生 田 哲 郎	(生田・名越法律特許事務所弁護士)
石 崎 忠 司	(中央大学商学部教授)
* 一 柳 良 雄	(城山総合法律事務所顧問)
伊 藤 進 一 郎	(住友電気工業(株)専務取締役)
上 野 守 生	(亜細亜証券印刷(株)社長)
内 田 和 成	(ボストン・コンサルティング・グループ副社長)
大 久 保 寛 司	(日本アイ・ピー・エム(株)MDQ推進担当)
岡 本 正 耿	(株)MPC 代表取締役)
尾 原 重 男	(株)三菱総合研究所常務取締役)
加 護 野 忠 男	(神戸大学経営学部教授)
木 川 田 一 榮	(富士ゼロックス(株)知識デザイン開発担当部長)
国 領 二 郎	(慶応義塾大学大学院経営管理研究科助教授)
酒 井 清	(株)リコー取締役)
境 健 一 郎	(かんき出版(株)代表取締役社長)
住 田 笛 雄	(センチュリー監査法人代表社員)
高 橋 均	(株)NTTメディアスコープ代表取締役社長)
田 坂 広 志	(株)日本総合研究所取締役)
谷 口 恒 明	((財)社会経済生産性本部産業経済開発本部部長)
徳 谷 昌 勇	(成蹊大学経済学部教授)
福 沢 進	(日本電信電話(株)取締役経理部長)
村 田 守 弘	(ベッカー・マッケンジーパートナー)
矢 澤 洋 一	(日本経済新聞社事務局総務)
山 田 英 夫	(早稲田大学アジア太平洋研究センター教授)

## 監 事

浅 野 純 次	(株)東洋経済新報社代表取締役社長)	富 尾 一 郎	(朝日監査法人会長)
---------	--------------------	---------	------------

(\* 次回の評議員会・理事会・総会で就任予定 / 氏名は五十音順)

# Information

## 研究奨励賞のご案内 研究奨励賞候補となる著作物を広く公募します。

当学会の研究奨励賞は、学会の内外からこの1年間(10/1～9/30) 広くナレッジ・マネジメント分野において、社会・ビジネス・学会等をリードし、インパクトを与えた著作物に対して毎年贈られるものです。

当学会選考委員会及び当学会評議員会において選考され、表彰状と副賞として賞金が授与されます。

ここでの著作物とは、著書、論文、学会発表内容などです。

現在、自薦・他薦を問わず受付中です。他薦の場合は、出版社を含む。

推薦する単行本 一冊(原則、返却致しません) 申込書(事務局にあります)  
締め切り 平成11年10月31日 送付先・問合わせ 当学会事務局まで

## 年間スケジュール

1. 第1評議員会 1999年1月20日(水) 住友電気工業(株)東京本社にて開催
2. 第2回年次大会 1999年2月15日(月) キャピトル東急ホテルにて開催
3. 理事会 1999年2月15日(月)
4. 第1研究部会 年4回
5. 第2研究部会 年4回
6. 研究年報の発行 1999年7月
7. KMレポートの発行 1999年2月、6月、10月
8. 第2回ヨーロッパKM調査 1999年9月
9. 研究奨励賞選考委員会 1999年12月6日、2000年1月10日、14日
10. 評議員会 2000年1月14日(金)

当学会ホームページを開設致しました。今後共、機能充実をはかってまいります。(URLは表紙)

## 新会員を募集しています

当学会は、ナレッジ・マネジメントに興味を持ち、研究意欲を有する人であれば、とくに入会資格を制限しておりません。学会の活動にご参加いただける方がいらっしゃれば、ぜひ参加を呼びかけてください。申し込みに必要な書類一式は、当学会事務局に用意してありますので、必要に応じてご請求ください。

## お申込み方法

「入会申込書」に必要事項をご記入のうえ、下記の当学会事務局宛てにお送りください。なお、法人は年会費100,000円(入会金なし) 個人は入会金5,000円、年会費5,000円を下記の銀行・郵便振替口座へお振り込みください。

申込書送付先：日本ナレッジ・マネジメント学会

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3-1-10 田中ビル(株)日本ビジネスソリューション内  
TEL 03-3270-0020 FAX 03-3270-0056

年会費振込先：

銀行口座 口座人名：日本ナレッジ・マネジメント学会 理事長 森田松太郎

さくら銀行 日本橋営業部 普通 7072689 住友銀行 日本橋支店 普通 1085878

三和銀行 室町支店 普通 3884012 東京三菱銀行 東京営業部 普通 3412822

郵便口座 口座人名：日本ナレッジ・マネジメント学会

日本橋三井ビル内郵便局 00120-3-12323



1999 FEB

発行日/平成11年2月1日

発行者/日本ナレッジ・マネジメント学会

編集人/石崎忠司

製作/(株)アイビジネスサービス

個人会員163名、法人会員38社(平成11年1月1日現在)

日本ナレッジ・マネジメント学会 事務局

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3-1-10 田中ビル(株)日本ビジネスソリューション内  
TEL 03-3270-0020 FAX 03-3270-0056